

「ステージは、コロナと共存する生活へ」

# 変化を受け入れ道を拓く、市内企業の取り組み。

7月末に、岩手県内で新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されて以降も、日々は変わらず動いています。しかし、「ここからが岩手の底力。経済活動を継続するため一層の対策を講じつつ、「変わる生活環境」にどう対応するかがポイントです。昨日に戻るのではなく、新しい明日をどう受け入れるか？ 今回は、コロナ禍で止まることなく、新たな取り組みを行う企業を取材します。

## 対策を講じて、進むために。

新型コロナウイルス感染症対策の徹底に向け、岩手県内の事業者は地道な取り組みを継続中です。感染防



「時代の変化に合わせて、自社の事業内容を組み換えていくことを恐れず、進みたい」と印部さん

止の基本的考え方を踏まえ、具体的な対策をどう講じていくべきか。秋以降の催事やイベント開催に向け、模索する事業者も多いのではないのでしょうか？

そうした事業者や市民の感染対策をバックアップし、なおかつ自社事業として新たな一歩を踏み出すべく、盛岡市内の企業は徐々に動き出しています。その一つ、大正期から続く老舗クリーニング会社「株式会社いんべくりーニング」では、8月から新サービスを開始。それは、衣服に付着するウイルスや菌の働きを99・99%以上抑制できる特許技術「VB（ブイビー）」を活用した、抗ウイルス・抗菌処理の加工です。



画像提供：FSX株式会社

「VB」とは、東京工業大学と慶應義塾大学の合同ベンチャーと東京都市内の民間企業「FSX株式会社」の共同研究から誕生した特許技術（特許第5314219号）。その名の通り、おしぼりや衣服にVB加工を施すことで、インフルエンザウイルスやセレウス菌などの付着をブロックし、不活性化させる働きがあるのです。

同加工技術を導入しているクリーニング会社は、全国で8社。県内では同社が初めての参画です。クリーニング業界は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、春以降の売上

が低迷。テレワークの増加、卒入学生等のセレモニが見送られたこともあり、フォーマルウェアやビジネスウェアのクリーニング数が大幅に減ったのだとか。果たして、今回のサービスはその状況打破を狙った発想なのだろうか。同社社長・印部孝輔さんを訪ね、VB加工サービス導入の経緯を伺ったところ、返ってきたのは意外な答えでした。

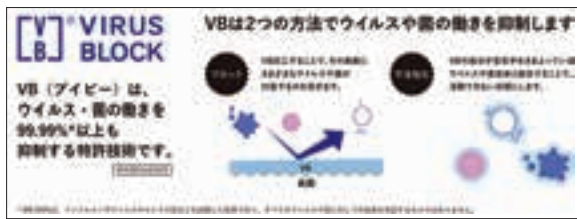
## 100周年の節目で、取り組む「公衆衛生」。

「弊社は、2018年に創業100周年の節目を迎えました。それを機に、改めて事業の原点に立ち返ろうということになったのです。いろいろ考える中、元々クリーニング業の役割として定められている『公衆衛生』という角度から、お客様に新しい付加価値を提供できないかとリサーチしました。まだ、コロナウイルスが蔓延する前です。インフルエンザウイルスや大腸菌、セレウス菌などに対する効果が期待されるVB加工は、一般のお客様はもちろん飲食関係や医療現場にも喜ばれるサービスになると考えました。そこで、2020年1月頃に直接コンタクトを取ったのです」。

FSXは、レンタルおしぼりやおしぼりの開発・企画・販売を行って

おり、VBはおしほりにおいて一番重要となる「衛生面」に着目し開発された抗ウイルス・抗菌の技術。その技術をおしほり以外にも応用できないかとホームクリーニング業界にも事業展開をはかり、2019年に東京都内のクリーニング会社とライセンス契約を結びました。そんな中、「クリーニングに新しい付加価値を」と考えていた同社が、この技術に出合ったわけです。

ライセンス契約を結ぶにあたっては、実際の工場加工される製品に検査（ベシック検査）を行います。FSXより送られてきた検体を洗濯機で洗い、VB（水溶液）を入れ加工を施し、検体を返送、先方の検査機関でVBがしっかりと含有されているかを測定し、適合した上で契約となります。通常なら、何度も行き



画像提供：FSX株式会社

来すべきところですが、先方と打ち合わせを始めたのが2月頃。コロナウイルスの影響により東京に向くことが難しくなり、打ち合わせから契約まで全てをリモートで行ったといえます。

「時間はかかりましたが、情報をしっかりと掴めれば、首都圏との距離にとらわれず、岩手県にいながらビジネスチャンスがあるのだ、という実証にはなりました」と印部さん。

オンライン会議を導入せざるを得なかったことで、社内でもリモート対応が徐々に浸透しつつあるそうで、コロナ禍の経験は思わぬ形で生かされています。

同社のVB加工サービスは8月1日からスタート。問い合わせは徐々に増えており、ウイルス対策への関心が高まっていることが伺えます。

同社では9月から法人顧客も含めた新たなキャンペーンもスタートさせる予定となっており、さらなる加工の浸透が期待されます。「クリーニング店ができることは限られますが、少しでも安心を提

供していきたい」と印部さんは意気込みます。

## 新しい付加価値をどう生んでいくか？

変わる生活環境を受け入れ、どうサービスに転換していくか。テント・シートの専門企業である『東北シート工業株式会社』も、求められるニーズに迅速な対応をし、事業転換を図っている企業です。同社の主たる業務は、屋外イベントでのテントやステージ設営のプロデュースなど。緊急事態宣言下、春先以降のイベント中止は、業界にとって大きな痛手になったと思われる。

しかしながら、その技術やノウハウを生かして、新型コロナウイルス対策用商品をいち早く提供。ゴールデンウィーク前の4月27日には、自社で特設ホームページを開設しています。飲食物のテイクアウト需要、PCR検査拡充に合わせたドライブ



医療現場で活躍する発熱外来テント



簡単組み立て式の透明アクリルパネル。面談や説明会等、必要な時に設置が可能

スルー型テントの開発、医療機関向けの発熱外来用テント、災害時・医療用緊急エアテントなど、日々目まぐるしく変動する状況を踏まえた商品とサービス内容は、県内に留まらず他県からも注目され、これまで取引のない中部や九州地方の自治体からの問い合わせもあるそうです。

スピード感ある対応は「東日本大震災発生時の災害用・緊急時の仮設施設需要で稼働した現場経験が生きている」と同社の代表取締役社長・細野裕之さんは話します。

地域経済を循環させていく上で、コロナ禍に負けずに進む地元企業の事例は大きな励みとなります。すでにステージは「コロナと共存する生活」に移っているはず。その現実を受け入れながら、自社の経験やノウハウを武器に、着実に道を拓いていきたいと思います。

（※本取材においては、双方のマスク着用等、新型コロナウイルス感染防止に必要な対策を施し実施しています）